

狙われた一郎

イチローは延長10回の打席で何を考えていたのか？という質問に次のように答えた。

「本当は無の境地と言いたいところだが、めちやくちやいろんなことを考えていた。今（日本では）ごつつい視聴率だろうな、とかここで打ったらおれは（ツキを）持っているなあ、とか。そんなことを考えるとあまりいい結果が出ないものなのに、出た。ひ

とつの壁を越えたような気がしている」と、自分を超越した非凡な才能を見たようです。

国チームの異様な対日感情を目の当たりに見ていたからだろ。

子孫に美田を残すどころか、我々自身の生命さえ危ういものとなるだろう。

隣国、韓国は歴史認識問題においても、日本帝国主義を悪魔の侵略国家だったとして、自制心を失うほどの怒りと憎悪をむき出しにする。対日コンプレックスである。韓国人は野球でも他のスポーツでも米国の勝つよりも日本に勝つほうが何十倍も嬉しいように見える。朝鮮総督府の日帝支配という文脈で、そういう対日感情をあらわにするのだろ

国民が自民党を存続させた場合、日本は人類の吸血鬼である米系国際金融資本に最後の血の一滴まで搾り取られることだろう。文字通りの暗黒社会が到来する。自民党はすでに吸血政権である。小沢氏を批判する町村信孝氏や伊吹文明氏の顔が吸血鬼に見える。彼らにこの国を任せただけで、

小沢氏がここまで標的にされるのは、官僚利権、大資本優遇、対米隷属の基本路線を小沢氏が破壊する恐れが高いからである。既得権益勢力に小沢氏がここまで標的にされたことは、いま小沢氏を失脚させてはならない何よりの証拠と考えるべきではないか。利権の擁護者、既得権益勢力の走狗、田原総一朗氏は、

自らの存亡の危機を察しテレビでも、世論誘導に必死の形相である

日本の長い歴史

の中で日本人は、生死を無視して行動するのがよくわかっていきます。今日の物質主義は肉体が朽ちればそれまでと皆思っている。僅か80年ぐらいで出来ることは何一つとしてないのです。しかし、明治以前の日本人は、死ねばそれっきりと思っていなかった。一生は長い旅路の一日のごときと生きていたのです。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2009年3月30日(月) NO 36
地域から明るい未来を作ろう

うが、国際大会でそのような心根をさらけ出すのはまったく大人気ない。イチローは、ジェントルマンの常識を欠いたそういう韓国チームの敵愾心に強い対抗心を持ったのだろ。

21年度予算・税制が成立しました。見たところ国家の形勢（流れ）は、地本主義の危機と捕らえ、抜本的な対策に転換しました。

これまで公開情報を分析した結果です。先週から、事務所では来客の皆様方に本質と見方、

流は明確にわかります。個人が余裕資金で直接儲けるのも一つですが、潮目

ぶらぶら、ビジネスは人どこのつなかりが「密」を呼ぶぞ

銀行の「餌」を避け遅れ気味？太い縄を編むのがよろしいでしょう。



地価下落によるやくクサビを入れる税制。考え方、公開情報資料を開示しているところ。一言で言えば常に大資本を優遇する税制ですが、潮